



修復後



修復前



滋賀県野洲市木部・錦織寺 の木造・阿弥陀如来坐像の 修復を行いました。

本像は焼損し炭化しており、細かな形が失われてはいるものの、その失われた部分をうかがわせる状態にありました。そのため、今回はまず、もろくなってしまう材質を強化し解体を行い、精査した後、出来るだけ元に近い形にすることで現状の痛ましい感じを軽減し、尊容の回復をはかるようにとめました。

錦織寺の創建は平安時代初期の天安二年に天台宗の円仁により創建された毘沙門堂に遡る。建長五年（1235年）、浄土真宗の開祖親鸞が逗留し阿弥陀如来を祀ったとされる。戦国時代から江戸時代初期にかけては浄土宗に属することとなったが、江戸時代中期には浄土真宗に復帰し、文化十一年（1814年）には准門跡に列せられた。出典：『フリー百科事典『ウィキペディア』(Wikipedia)』

● 錦織寺 (kinshokuji) ウェブサイト

● <http://www.cable-net.ne.jp/user/kinshokuji/>

■ 今回の修復について

概略	要点
大きさ	像高 477mm 最大奥 320mm 木造
修復前形状	納衣をまとい、右手を屈臂し胸前で掌を外にし、左手は膝前で来迎印を結ぶ。
修復要点	<p>□ 修復前の来迎印では形状に無理があったため、協議の末、右肘を曲げる角度や左腕の傾きから考え、弥陀定印に変更し、その際右前腕・両手先を絵で新補した。</p> <p>□ 面部や各部分の形状がうかがえる箇所や、部材の矧目は木屑漆で形を整え、錆漆で微調整を行い仕上げとした。盛り付ける高さが少ない箇所は錆漆で成形した。</p>

京都科学・工芸課では、滋賀県野洲市にある錦織寺様の木造・「阿弥陀如来坐像」の修復を行い先月納入いたしました。



面部や表面形状の欠損が目立つ箇所などに錆漆を盛り付ける。仏像修復技師の手は慎重沈着に、ひたすらに心を込めてゆく。

■ 作業を終えて

今回の修復は、いわゆる文化財の修復において、あまり一般的なやり方ではないのですが、かと言って選択肢に入っていない訳でもなく、色々な部分でのバランス感というのがチャレンジだったように思います。

この場をお借りして、今回の修復に携わる機会を与えて下さった錦織寺関係者の皆様、また、監修して下さいった東京文化財研究所の津田徹英様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

(記 那須川善男)